

海外

論文 &

レポート

AARP からのメッセージ

AARP（全米退職者協会）の会長、マリー・F・スミスさんからの高齢協連合会へ新しい年にむけてのメッセージが届きましたので、転用します。AARPは世界最大のNPO団体で会員数は3500万人。AARPと労協連やセンター事業団との交流は96年から始まり、2001年の全国高齢協の発足式には、当時のテス・カンジャ会長とジム・パーケル次期会長が出席しました。以降ほぼ毎年、会長や理事が来日の折、労協・センター事業団の地域福祉事業所などを見学しています。

日本労協連国際担当 玄幡 まみ

日本高齢者生活協同組合連合会 へのメッセージ

AARP 会長 マリー・F・スミス

数年前、私はワシントンDCのAARP本部で日本高齢者生活協同組合連合会からの代表の皆さまにお会いすることができたことは、たいへんな喜びです。同様に、前の会長であるテス・カンジャ、ジム・パーケル、理事会の議長であるチャック・レーベンが皆さま方のすばらしい施設を訪れた時、丁重に歓待してくださいました。こうしたミーティングは今日の高齢化社会への適応において役立つだろう提案、プログラム、発案を交換する機会として意義あるものです。

今年はお会いする機会はないでしょうけれど、私たちの目標と課題は共通しています。私たちはポジティブな高齢化に関して、皆さま方の国のリーダーと対話を続けています。2005年12月、加齢に関するホワイトハウス会議の海外のオブザーバー参加者として、日本代表を歓待しました¹。日本の高齢労働者を励まし、健康保険や年金制度の強化するというのは私たちの共通の課題です。貴国の代表者は、現在の政策と発案に関

する価値ある情報を提供してくれました。私はその深い洞察に感謝を申し上げます。

高齢者が社会にますます増えており、この爆発する人口と会員により役立つために協力し交流しあうことは、私たちの努力如何に掛かっています。個々の人びとのために最上の可能なケアと最高レベルの参加を保障する手段として、政府や政策担当者を活用する必要があります。私たちはまた確実に会員の活動に関連するようにし、組合員のニーズに真に責任をもたなければなりません。

しばしば、高齢化について社会的費用と解決しなければならない課題がメインに議論されています。しかし、それは個人だけでなく社会全体に便益があることが十分に強調されていません。加齢はすばらしいプロセスです。人びとは充実して生きており、健康で長生きをします。高齢者が持っている知識は、活用されずに残っている大きな資源です。社会に有意義な貢献の機会を高齢者に与える一方、この資源を最上のものとして活用するのは、私たちのような団体の力量次第なのです。

高齢協が発展し組織を大きくする一方、引き続いてAARPの友人であるように希求します。日本のすべての人びとがその生涯において成功し、人生を楽しむことができますように。

(注)

¹ ホワイトハウス会議は、10年に一度開催され、全米各州から代表1200人が参加し、今後10年間の高齢化問題の最優先課題を議論するのがその趣旨である。当該会議出席の海外傍聴人(政府・民間人)は45名、内日本からの参加者は4名。高齢協が加盟している「高齢社会NGO連携協議会」の代表もこの会議に参加した。